

猫の耳介の肥満細胞腫

症例解説と治療の流れ

猫の肥満細胞腫は良性の場合もあるが、増大と内科治療に反応が悪いということから悪性の可能性もあり手術をした。マイナーサージェリーでも良性腫瘍でもマージンが小さいとそれに伴う再発のリスクがあり、マージンが小さいには小さくする技術が必要である。それにはしっかりと視認することが大事になる。当院ではZEISSのサージカルスコープを使用している。肥満細胞腫辺縁から1cmの所をマージンとした。RFナイフでなだらかにカットした。耳介は出血を考慮しBLEND50で切開した。

耳の軟骨はメスでは切りにくいものであるが、RFナイフの切開特性として得意な箇所である。思い通りの形に一気に切ることができ、切開部分を形成することなく縫合できる。耳は表面の方が皮膚は厚く、耳介（内側）の方は皮膚が薄い。表面の厚い皮膚を内側に縫い付けるように運針すると良い。



耳介に発生した
肥満細胞腫

良性腫瘍でも
マイナー
サージェリーでも
視認することは大事！



肥満細胞腫の辺縁から1cmマージン
マーキングし皮膚・耳介軟骨を同時切除

針電極 (エルマン社製)

A8D



シャフト：20mm/電極外径：0.2mm

出力モードと出力値

BLEND 50

